

基盤地図情報（数値標高モデル）で提供しているデータについて

I. 5m メッシュ DEM

1. 航空レーザ測量による DEM（基本測量）

①作成機関

国土地理院が基本測量として作成

②作成方法

航空レーザ測量で地表に到達した計測点の標高値（グラウンドデータ）から 0.2 秒（約 5m）メッシュの中心点の標高値を内挿処理により作成

③主な整備範囲

主に都市域を中心に作成

④ファイル単位

3 次メッシュ単位で作成。

ダウンロードはこれを 2 次メッシュ単位にアーカイブしたものを提供。

（ファイル名は〇〇〇〇DEM5A.zip）

⑤精度

標高取得位置の標準偏差は、1.0m 以内

標高点の標準偏差は、0.3m 以内

（0.2 秒（約 5m）メッシュ内にグラウンドデータがない場合は 2m）

※ 標高の有効値は小数点以下 1 位まで（小数点以下 2 位は参考値）

⑥水部（海面及び内水面）の扱い

基本的に標高値は"-9999."、DEM 構成点種別（属性）は"海水面"または“内水面”としている。なお、内水面は幅 10m 以上の河川の水部、大きさ 10m×10m 以上の池等としている。

⑦公共測量により作成したデータとの統合

平成 25 年 11 月 19 日から、国土交通省（地方整備局等）等が主要河川流域等を中心に整備したデータと、国土地理院が基本測量として作成したデータを統合して提供している。これは、これまで各々別のデータとして一部重複した範囲を提供していたものを統合して提供しているもの。データの統合（マージ）は、自動処理しているため、測量時期や測量機関の違いにより一部の箇所では標高値や属性が隣接データと整合していない場合があることに注意。

2. 写真測量による DEM

①作成機関

国土地理院が基本測量として作成

②作成方法

写真測量で計測した標高値から 0.2 秒 (約 5m) メッシュの中心点の標高値を内挿処理により作成

③主な整備範囲

主に都市域周辺を中心に作成

④ファイル単位

3 次メッシュ単位で作成。

ダウンロードはこれを 2 次メッシュ単位にアーカイブしたものを提供。

(ファイル名は〇〇〇〇DEM5B.zip)

⑤精度

標高取得位置の標準偏差は、1.0m 以内

標高点の標準偏差は、0.7m 以内

※ 標高の有効値は小数点以下 1 位まで (小数点以下 2 位は参考値)

⑥水部 (海面及び内水面) の扱い

標高値は"-9999."、DEM 構成点種別 (属性) は"海面"または"内水面"としている。なお、内水面は概ね 1km² 以上の湖沼とし、1km² 以下湖沼及び河川については"地表面"としている。内水面には標高値を付与する。海面には標高値はない。

II. 10m メッシュ DEM

1. 火山基本図の等高線による DEM

①作成機関

国土地理院が基本測量として作成

②作成方法

5 千分 1 及び 1 万分 1 火山基本図の等高線から 0.4 秒 (約 10m) メッシュの中心点の標高値を内挿処理により作成

③主な整備範囲

全国の 26 火山

「雌阿寒岳」「岩木山」「岩手山」「秋田駒ヶ岳」「鳥海山」「蔵王山」「安達太良山」「那須岳」「草津白根山」「鶴見岳 (鶴見岳・由布岳)」「くじゅう連山」「阿蘇山」「霧島山」「有珠山」「秋田焼山」「磐梯山」「焼岳」「富士山」「伊豆大島」「三宅島」「東伊豆単成火山群 (遠笠山・大室山・小室山)」「雲仙岳」「薩摩硫黄島」「薩摩竹島」「諏訪之瀬島」「浅間山」

④ファイル単位

2 次メッシュ単位で作成。(ファイル名は〇〇〇〇DEM10A.zip)

⑤精度

標高取得位置の水平精度は基図による。

標高点の標準偏差は、2.5m 以内

※ 標高の有効値は小数点以下 1 位まで（小数点以下 2 位は参考値）

⑥水部（海面及び内水面）の扱い

内水面については、標高値は周囲の標高値、DEM 構成点種別（属性）は"その他"としている。

（通常の地表面についても DEM 構成点種別(属性)は全て"その他"としている）

海面については、標高値は"-9999."、DEM 構成点種別（属性）は"データなし"としている。

2. 地形図の等高線による DEM

①作成機関

国土地理院が基本測量として作成

②作成方法

2.5 万分 1 地形図の等高線から 0.4 秒（約 10m）メッシュの中心点の標高値を内挿処理により作成

③主な整備範囲

全国

④ファイル単位

2 次メッシュ単位で作成。（ファイル名は〇〇〇〇DEM10B.zip）

⑤精度

標高取得位置の水平精度は基図による。

標高点の標準偏差は、5m 以内

※ 標高の有効値は小数点以下 1 位まで（小数点以下 2 位は参考値）

⑥水部（海面及び内水面）の扱い

1km²以上の大きさの湖沼は、水部ポリゴンを生成（全国で約 500 箇所）し、周辺が一番低い標高値を入力する。

内水面については、標高値は周囲の標高値、DEM 構成点種別（属性）は"その他"としている。

（通常の地表面についても DEM 構成点種別(属性)は全て"その他"としている）

海面については、標高値は"-9999."、DEM 構成点種別（属性）は"その他"としている。